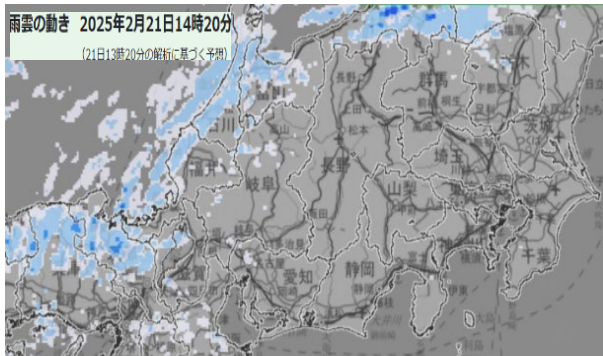


4: 自然的背景

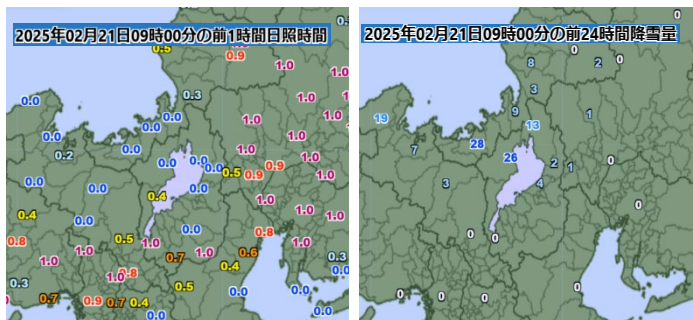
4-1: 時間の差に対する「環境」の変化

ここでいう環境とは、みずからがいる場所の空間のことである。リゾートに対して保養地・避暑地という和訳は定着している。珍しいものを見て歩く観光に対し、身体を置く空間がふだんと異なればこそリゾートである。

空調のない時代では避寒・避暑の空間が貴重であったし、街に暮らす人々にとって、あるいは時折の田舎の空間は安らぎをもたらすであろう。そこで、別荘代わりに会員権を買う意味は、先々にときたま身体を置く空間の確保にある。とすれば、わが「別荘」が置かれた自然環境を、多少とも理解されておくほうが便利である。



供給側でいえば、世界の同業者が知ることではあるが、「都会からみて最初の 1000m は買い」という。時間の差に対する空間の変化をいう。少し理屈をこねるが、フランス語の resort の語源からも想像できるように、リゾートには2通り定義があって、いずれも日常生活空間との異空間を前提に、ひとつは異空間での長期(たとえば1週間単位)滞在、もうひとつは同一異空間への多頻度訪問(たとえば毎週末には別荘で生活する)である。



SAC 琵琶湖の会員権はどちらにも向いているが、あえていえば多頻度訪問型に設計されていると推定する。そうすると、短い時間で異空間に到達できるのは、利用者にとってメリットになる。名所旧跡を訪ね歩く「観光」とは異なる側面がある。SAC 琵琶湖は、名阪に近く、かつ、「水」をテーマに異空間を体感しやすい特徴を備えている。

4-2: トンネルを抜けると・・・標高は下がっていた・・・

この空間差/時間差を、川端康成は・・・国境の長いトンネルを抜けると雪国であった・・・という趣旨のことを描いた。現代語に訳せば、上越新幹線の上毛高原(在来線は水上)→清水トンネル→越後湯沢(在来線併設)。湯沢の周辺には著名なスキー場はあるし、雪景色に不自由はしない。関東平野の端からよほどの高い山のふもとまで、身体を移動したとを感じるであろう。

しかし、駅の高度(google-earthの標高値)を比べると、上毛高原駅が約450Mに対して越後湯沢駅は370Mくらいしかない。時間差に対する標高差(vertical drop)はなんと▲80M/12分となる。安中榛名駅(≡在来線横川駅→碓井トンネル(11分)→軽井沢駅(在来線併設)だと、300M→940Mで標高差640M/11分である。しかし軽井沢では越後湯沢ほど雪は降らない。

夏涼しいと思って湯沢のリゾートマンション購入された向きは、場所にもよるけれども、あるいは思い通りにならなかったかもしれない。温泉付きで湯沢を選んだ向きには、あるいは期待に応えたかと推定する。軽井沢から東京に通動できないことはないけれども、定住を志すには冬の気温が札幌並みを覚悟すべきであろう。そして、アメダスは賢くいろいろ示唆を与えてくれるが、空気の質がまるで違うことまでは示唆しないであろう。

温暖化したいまでもトンネルを抜けると雪ではあるのだけれど、それが自分の好みに合うかどうかは、うわべだけでなく中身を良く調べになった方がよい。

4-3:琵琶湖の場合

水とともに「天候」も異空間を感じさせる要素になりうる。SAC 琵琶湖から9 キロほど北の高島市今津町弘川(標高:88.0m/高島市立今津中学校隣接箇所)に、気象庁が設置した「アメダス」がある。その観測データを使って、まずは SAC 琵琶湖の降雪を推定してみよう。

ただ、当地域も「一里一尺」、4 キロ山奥に進むと積雪が 30 センチ深くなる・・・であろうから、観測値をみるとき割引く必要ではあるのだが、ただしアメダス観測地点と SAC 琵琶湖の現場との高度差は 10m 程度しかなさそうだ。

まずは、例年の降雪シーズンにおける日々の降雪量を単純に足していくと、その年によって雪の積もり方がだいぶ異なる。

この 6 年間で比較する限りでは、つぎの傾向がでてくる。

- ①例年 12 月中旬～2 月下旬のどこかの時点で降雪する。
- ②11 月と 3 月には雪は降らない。ここまでは確実にいえるが、それ以外は単純ではない。

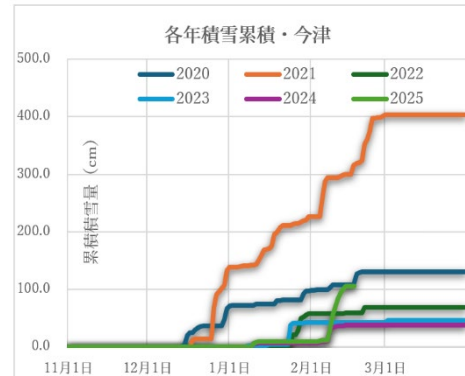
すなわち、③1 月に雪が降らずに、2 月によく降る年もある。

- ④格差は大きく「あたり年」があるようだ。少なくとも 2021 年(20 冬/21 春)年は大雪だが、23 年(22 冬/23 春)や 24 年(23 冬/24 春)年の雪は少なかった。

つまりは、12 月中旬から 2 月中旬の 3 か月は雪に出会う可能性がある。お飾り程度の雪なのか、深々と降る雪か、それは出会ってみないと分からないが、両方の可能性がある、この 6 年間のデータは示している。筆者は自動車の運転をしたことがないのでよくわからないが、列車も含めて他人が運転するクルマに乗っている分には、気長に雪を眺めているだけでも、道楽にはなる次第である。

たまたま権利行使日に雪が降ったら、気まぐれの雪と上手に付き合う楽しみがある。仮にここに戸建て別荘を所有していたら、屋根の雪下ろしや道路の除雪、屋内水道管の凍結・破裂云々で容易なことではない。管理会社はあるが、いずれにしても、自力に限界(特に時間の限界)があるので、他人に依頼して処理しなければならない。否応なく、地元のコミュニティの一員になる必要がある。それはそれで道楽にもなるのだが、いささか煩わしい側面もないではない。田舎暮らしをはじめたけれど、自治会付き合いには懲りたという向きも少なくない。

「別荘」ならぬ会員制リゾートホテルなら「会費+(宿泊の場合は室料・食事代)」で済んでしまう。会員制ならたまたま出会った降雪もまたのひとつの道楽のネタにできるというものである。



4-4: 気温

いまどきは空調完備なので外気温の差はあまり気にならないかもしれないが、空調のない清浄な空気を深呼吸するコストは意外に高額であり、だれでもできることではない。四季が明確な温帯より、常夏の熱帯の方が、リゾート開発とその後の事業推進に適するとの教えも一理あり、熱帯・亜熱帯には世界的に著名なリゾートが存在する。知る範囲で例示すると以下ようになる。

①アジア:バリ(インドネシア)、プーケット(タイ)、モルディブ(同)、セブ(フィリピン)、ランカウイ(マレーシア)、ニャチャン(ベトナム)、ゴア(インド)。②オセアニア:タヒチ(フランス領ポリネシア)、フィジー(同)、ニューカレドニア(フランス領特別自治体)、グレートバリアリーフ(オーストラリア)。③中南米:カンクン(メキシコ)、コパカバーナ・リオデジャネイロ(ブラジル)、プンタ・カナ(ドミニカ)、カリブ海諸島(バハマ、ジャマイカ、セントルシアなど)、ガラパゴス(エクアドル)。④アフリカ・中東:セーシェル(同)、モルディブ(同)、モーリシャス(同)、シャルム・エル・シェイク(エジプト)、ドバイ(UAE)。⑤同:リゾート地名=国家名称。

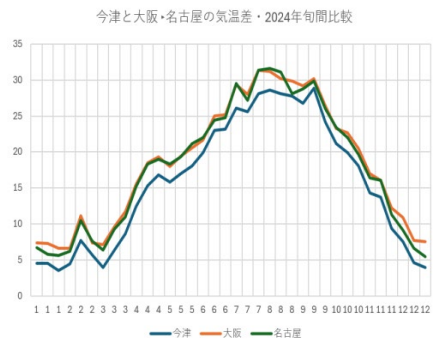
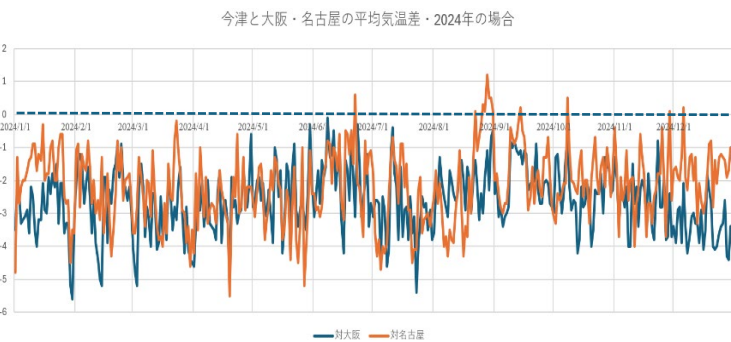
一方、気温格差に身体を適用させ、身体を健康に維持させる努力も、温帯に暮らす人間の特権でもある。ただ、供給側は通年営業が難しい場合もある。改めて調べたわけではないが、記憶の範囲でフランスアルプスの例を想起するに、ヴァルモレル(Valmorel)、仏側のラ・トゥイル(La Thuile)、ブラリュブ(Praloup)、レ・シベリエール

(Les Sybelles)などでは、一部のエリア夏季クローズになっているかもしれない。軽井沢でさえ通年営業はむずかしいとする件は昔からよくある話題である。

ただし、いずれの場合でも、リゾートのメリットはだれにでも享受できるわけではない。自由に使えるカネと自由になる時間、その両方を、同時に充足できる自然人(法人ではなく身体をもつ生身の人間)に限られる。

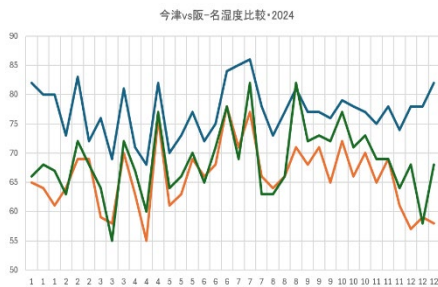
前置きが長くなったが、そういう意味で、今津の気温と大阪・名古屋(観測地点はいずれも管区気象台所在地)の気温と比べていただきたい。下右図は、今津の気温から名阪の気温を引いた値である。今津の値が名阪の気温を超える日(破線を超える日)は、2024 年の場合、大阪との比較ではほぼゼロ、名古屋との比較で年間の数日しかない。それ以外は、涼しいまたは寒い日にあたる可能性が高い。

また、下右図は、今津と名阪の旬間(10 日ごと)の平均気温を比較したものである。各月の上旬・中旬・下旬の気温平均である。



4-5:湿度

同じく今津と名阪の湿度(相対湿度)を各月 3 つの旬間に分け、各旬の平均値を図化した。湿度は年間を通じて今津の方が高い。大湖水面に近いということであろう。とくに 12~1 月にその傾向があるようだ。名阪の冬季は乾燥するのかもしれない。



4-6:東向きと日照時間

SAC琵琶湖の位置は「管理用道路」を挟んで湖畔の水際線に接し、東に向いている。後でも触れる予定だが、これは貴重な立地である。ともにその時間帯が晴れていれば、湖畔に向かって、あさの日の出が楽しめる(はずである)。

琵琶湖の年間の日ノ出時刻はおよそ 4 時 50 分から 7 時 10 分の間である。よって日ノ出の鑑賞には晴れていることが条件だが、日の出の時間の、その前後の時間帯の日照時間が長いほど良い。黄色枠の早い時間に身体を覚醒させ、思い思いの選択地点に移動すると良いであろう。

右表の 1 行目桃色表示の行は時間帯(例:4~5 は午前 4 時から 4 時 59 分)、一列目薄緑色は月(例:1 は 1 月 1 日~月末)。よって、6 月の 4~5 の値「7」は、6 月の 30 日間で 4 時台の日照時間が「0.7」以上ある日数が 7 日間あったことを意味する。公表される日照時間は比率で少数 1 位まで。よって、日照比率基準 0.6 は「>0.6」なので、0.7 以上を意味する。

当該時間の日照比率基準							
0.6							
月	4~5	5~6	6~7	7~8	8~9	9~10	
1	0	0	1	8	10	11	
2	0	0	5	6	7	8	
3	0	2	9	9	10	12	
4	0	9	15	15	16	15	
5	7	14	14	15	13	15	
6	7	7	10	13	13	13	
7	1	6	8	11	12	16	
8	1	12	17	17	18	18	
9	0	8	13	14	17	20	
10	0	4	13	14	16	16	
11	0	0	14	14	16	15	
12	0	0	2	8	12	7	

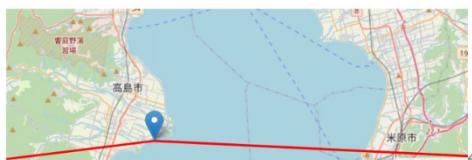
③「4~5」は午前4~5時の意味。
数値は日照時間の比率が基準以上の日数

もっとも、今津の気象観測機器アメダスから分かるのは日照時間(1 時間単位で日照のあった比率)であって、その方角までは不詳である。東は曇って西が晴れているかもしれない。また日の出時間帯の日照が短くても、日の出の光景は独自である。参考ということで掲記の表を掲げた。

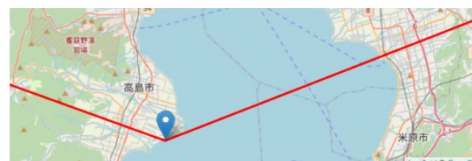
4-7:月の出

月の出は日の出に比べ複雑であるので、2025～2030年の秋(9～10月)の満月の日を例示する。この6年間を見るに、27年10月の月の出は早い。また月の出の位置は、下図左朱線が示すように、25年9月を基準にすると、少しずつ北上(対岸の米原から長浜方向)している。むろんのことだが、月の出前後の時間の天候は晴れていることが前提である。

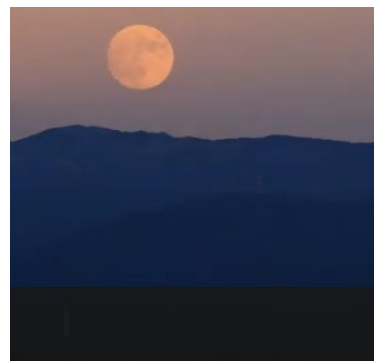
年	月	日	月齢	月の出
25	9	8	15.9	1830
	10	7	15.3	1725
26	9	26	15.0	1723
	10	26	15.5	1651
27	9	18	15.4	1755
	10	15	15.0	1651
28	9	12	15.0	1824
	10	4	15.4	1750
29	9	24	15.7	1816
	10	23	15.3	1722
30	9	13	15.2	1831
	10	13	15.7	1813



25年9月8日月齢15.9月の出1830の位置・図の左朱線



30年10月13日月齢15.7月の出1813の位置・図の左朱線



出典:<https://hinode.pics/moon/state/code/25>

⑨画像はイメージ。出典:ニッポンアーカイブス「Japan 1minute Travel」滋賀 琵琶湖(SHIGA Lake Biwa)酷暑の中、琵琶湖から愛でた中秋の名月」

5:周辺の名所旧跡

5-1:メタセコイア

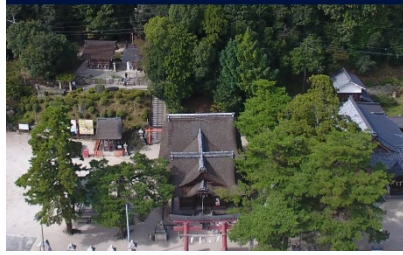
メタセコイアは別名アケボノスギ、ルーツは中国、すぎ科メタセコイア属、落葉高木。背の高くなる樹木で軽く30m≒10階建てビルを越す。セコイアほどではないが、高島市内に、2.4キロ・約500本のメタセコイアがのびのびと育っている。1981年に学童農園「マキノ土に学ぶ里」整備事業の一環としてマキノ町果樹生産組合が植え、関係者の慈しみがあって、現在に至っている。1994年「新・日本の街路樹100景」(読売新聞社)に選定された。

四季折々に、色調が変わり、訪問者を感嘆させる光景を創り出す名所である。



5-2: 白髭神社

高島という行政区画が奈良時代からあったように、高島の白髭神社も675(白鳳3)年に天武帝の勅旨(ちよくし)を以て「比良明神(ひらみょうじん)」



の号を賜るとある。

縁起に「こゝに近江国志賀郡、白髭明神と申は、往昔、天照大神の勅をうけて、皇孫天津彦々火瓊々杵尊、天降まします時、先駆の神立帰り…」とあり、天照大神が岩戸に隠れた後、世界が暗闇に包まれる中、猿田彦神は太陽の神・天照大神を岩戸から引き出すために、神々とともに導き手となり、彼の力が世界を再び明るくしました…とのことで、道を開き、神々を「正しい場所」に導く役割を果たしたと伝わる。ゆえに現代に転じて、交通安全や道路の守護神として信仰される。



そもそも近江国最古の大社で、全国に300の分霊社を抱える。観阿弥作の謡曲「白髭」にも謡われる猿田彦命は白髪・白髭の老人だが、なんといっても長寿神であるので、溢れる御神徳があると深く信仰されている。

⑨ <http://shirahigejinja.com/>

上左図は白髭神社主境内全景、右図は雪の社務所、下右は縁起絵巻。

5-3: 道の駅「藤樹の里あどがわ」

高島扇骨(たかしませんこつ)。扇骨とは扇子の骨、すなわち扇子の紙以外の部分のことである。貧乏公家の内職か趣味か、主家を失った浪人の櫓か、その端緒は諸説あるようだが、高島は古来、そしていまなお、竹製の扇骨はほぼ高島産である。



京都に出荷され、絵付けされた紙が貼られて「京扇子」として販売される。まずはみやこの隣接地らしいもの造りである。

ただ、高島も骨だけ行っても間尺にあわない。むしろ「近江扇子」として最終製品も生産する。この道の駅では、予約により扇子絵付けを体験(右図下)できるので、HPなどで調べた方がよい。



安曇川キッチンが高島の水と土地で育ったおいしいお米と野菜を使用した「高島発酵定食」や、安曇川産アドベリーの飲料があるとのことだ。そして安曇川グリルは備長炭を使い近江牛が名物という。

5-4: 近江聖人中江藤樹記念館

中江藤樹(1608～1648)は近江国高島郡の出身、墓地も高島市の玉林寺にある。近江聖人と称され、近江の居を置く学者で、日本の「陽明学」の開祖ともいう。主著に『大学啓蒙』『翁問答』、『鑑草』がある。王龍溪(王陽明の高弟)の影響を受け、熊沢蕃山あたりが弟子筋になる。四民の身分を超えた平等思想があり各層に浸透したが、統治者の江戸幕府から見れば、林羅山の「朱子学」こそ、武家が学ぶ本流ゆえに、彼は歓迎されなかったかもしれ



ない。近江生まれの中江藤樹(1608-1648)は「(日本の)陽明学の祖」という。江戸から遠隔地にいて、しかも外国の学問である陽明学をどのようにして学んだのか？

もともと高島郡小川村の農業・中江吉次の長男。幼少から読書好きで聡明な少年、よって独学で朱子学に接、12歳で父と死別、苦学し祖父(伊予大洲藩主・加藤貞泰)の養子となり、1617年に伊予大洲藩(7万石)に移住、祖父の死去に家督(100石)を相続するも、1634年27歳、家事都合と健康上から辞職を願うも却下され、脱藩後京での潜伏を経て、同年近江・高島に戻り酒屋を営み。自宅で「藤樹書院」なる塾を開き、研究を続けたという。

経歴は藤樹学が根付いたなんと福島県喜多方市のHPに詳しい。それによれば1621年14歳の折、曹溪院天梁和尚に書道や漢詩を学び、1624年に旅の禅僧から『論語』を学ぶ一方、1628年で『大学啓蒙』を著す。中国の陽明学者王陽明(王守仁)の著作『陽明全集』を初めて入手したのは1644年37歳というから、基本的には独学の人ようだ。朱子学を学ぶ途中で陽明学に出会い傾倒したことになる。



⑨<https://www.city.kitakata.fukushima.jp/site/nakae/1097.html>

5-5 続 突然の帰郷と陽明学

以下、少しばかり聞かじった範囲でのメモである。ひとはどう生きるべきか、守るべき道徳はという問いの答え方に差があり、本流の朱子学では解はひとの外にあり、書を読み学び知識として蓄え、徐々に身に着くものに対して、陽明学では解はすでにそのひとの内面にあり、学んで磨きをかけ、とにかく実践すること、「知行合一」の実践が肝要と説く。たとえば、1634年、母を世話するべく、27歳にして武士を辞め近江に帰郷する。「家庭の道徳的秩序が国家の基本になる。ゆえにかかる実践こそ陽明学の「孝」に叶う・・・と教えたのであろう。熊沢蕃山、吉田松陰、西郷隆盛そして明治維新へと引き継がれた。



前項、道の駅の隣に、「近江聖人中江藤樹記念館」がある(現改修工事・2025年4月再開)ので、ご関心の向きは、ここで書籍でも購入され、一読いただきたい。また、付近に国の史跡「藤樹書院跡」があり、案内所兼休憩所として「良知館」が整備され(上図)、訪問者の便宜に供している。

⑨画像は NPO 法人 高島藤樹会 info@takashima-tojukai.com

5-6: 竹生島からエクシブ琵琶湖

琵琶湖を挟んで、西に本コート、東に同じくリゾートトラスト株式会社が運営するエクシブ琵琶湖がある。日に5本(本稿執筆時点)、今津港発⇒竹生島着⇒上陸(60~120分)⇒竹生島発⇒長浜港着がある。竹生島には弁天嬢が祭られ、琵琶湖命名の根拠になった「琵琶」を抱えておられる像がある。乗船料は3200円。時刻表や運行状況はその都度ご確認ください。



https://www.biwakokisen.co.jp/cruise/chikubu/price_time/

SAC 琵琶湖から、北北東の葛籠尾崎(つづらおさき方向に、直線で約20キロ)、岬の陰になって、地上からは直接には見えにくい、竹生島がある。一周約2km、面積14平方km、ざっと4.2万坪・標高197m、案外大きい。巨大な花崗岩が急峻な岩壁を造り、土が堆積して針葉樹が育っている。



竹生島には大弁才天を祭った宝厳寺・本堂がある。江ノ島・宮島に並び「日本三弁才天」に数える。歴史は古く、724年聖武帝の命で僧・行基が開眼、725年に観音堂建立を発案したという。天皇行幸はじめ伝教・弘法各大師なども来島し、修行したことじなっている。

なんでも秘仏で 60 年に 1 度しか公開さしないという。次回は 12 年後の 2037 年。御大層な弁財天ではある。代わって、ダルマを買って願い事を書けば、弁財天は効いてくれるかもしれない・・・とのことだ。

右上図: 宝厳寺・本堂。右下図: 奉納された達磨。

5-7: 琵琶湖1周サイクリング

以下のホームページに詳しいが、・・・びわ湖の一周(南は瀬田唐橋まで)約 200km。琵琶湖大橋以北の「北湖(ほっこ)」一周なら約 160km。大橋以南の「南湖(なんこ)」は省略して「ビワイチ達成」とする人もいる・・・とのことである。

名所に立ち寄り、美味しいものを味わうなど、湖畔の魅力を楽しむために 1 泊 2 日以上以上の日程をお薦めするとある。湖周はほぼ平坦だが、湖北の木之本～塩津間と、塩津～永原に抜ける途中にアップダウンがあるとか。事前にインターネットで経験者の情報を収集することを推奨している。

<https://www.biwako1.jp/basic/plan>



5-8: 安曇陵墓参考地/宮内庁

陵墓参考地とは全国で 46 基(1993 年現在)。そのひとつが高島にもある(前掲)。「被葬者が特定出来ないが陵墓である可能性が高い」ゆえに陵墓の参考地という。Wiki に詳しい。祭祀の対象ではないが、立ち入り禁止である。

ただし、宮内庁の HP によれば、「安曇陵墓参考地における参拝の再開について(平成 31 年 3 月 1 日掲載)、参拝を休止しておりました安曇陵墓参考地においては、参道通行が可能となり、参拝を再開しましたのでお知らせいたします」とあるので、あるいは、立ち入りできるのかもしれない。

安曇陵墓参考地は、滋賀県高島郡安曇川町大字田中宇山崎にあり、応神天皇玄孫宇非王王子彦主人王継体天皇御父の墓陵と推定され、遺跡名は田中王塚古墳といい、明治 38 年 5 月 25 日に指定された。3 基の陪塚をもつ。第 1 類とあるので、陵墓の疑いが濃く、墓埴の形式が、擬せられている御方の時代に合致し、所在地も文献に考証のあるもので、考証上は陵墓に決定的見込みをもって速やかに調査を必要とするものとする。

② <https://www.kunaicho.go.jp/info/ryoubu12.html>

